四季 ―志木自然報告―
Shiki Seasonal Nature Reports 2023



新年度のご挨拶（巻頭言にかえて）

新入生の皆さんには入学の，在校生の諸君には進級の，お祝いを申し上げます．

本校における「学び」とは，考え方や知識を身につけることで，目の前の事象をより多面的に理解することができるようになり，自分を取り巻く世界を豊かに見通せるようになることです．

福澤先生は，この豊かで複雑な世界の理（ことわり＝因果関係）を解き明かして，その答えを導き出す考え方がサイエンス（＝実学）だとおっしゃっています（サイエンスを科学という意味で使っていませんでした）．入塾したからには，是非この「実学」というものを理解し，使いこなせるようにしてください．理（ことわり）を理解し、自分を取り巻く世界が重層的にみえた方が楽しいと思いますが，いかがですか？

本校の教育目標の一つである「基礎的な学問の習得」は「知識」を得ることを意味しません．「考え方」を学ぶことです．みなさんにはまず，本紙を手掛かりに，自分を取り巻く自然環境の重層構造に気づいて貰えれば，と思います．本校で過ごす時間が有意義であることを心より祈ります。

(*Miyahashi*)

【お香と植物①】 シナモンの魅力 *Incense*

古典には香りの表現がたくさん登場します。例えば、光源氏が暗闇に包まれた邸内を歩いた際には、「いみじく匂ひ満ちて、顔にもくゆりかかる心地する」（光源氏の香りが一面に匂って、香りが侍女の顔にもかかるような心地がする）と、光源氏の姿は目に見えずとも、彼のまとう素晴らしい香りが漂う様子が描かれています。

光源氏の香りはどんな香りだったのでしょう？それを知る手掛かりはお香です。日本では古くからお香の文化が栄えており、光源氏もお香を焚き、その香りを身にまとっていました。

お香の原料は植物です。植物の樹皮や樹脂などを用いて、複数の原料を調合することで香りを作り上げていきます。実は、皆さんに馴染みのある香りもお香の材料に使われています。その一つがシナモンです。

シナモンは、シナモンロールやシナモン入りコーヒーなど、西洋っぽいイメージがありますが、お香や漢方の世界では「桂皮（けいひ）」という名で知られています。（厳密には桂皮には種類があり、ベトナム産の「シナモン」、中国産の「カシア」などがあります）。桂皮が日本に入ってきたのは西暦700年頃のようです。古代ローマではその甘美な香りから愛情を示すものとされ、皇帝ネロが皇后の死を悼んで、ローマの消費量一年分の桂皮を燃やして弔ったという逸話があります。



そんなロマンティックな桂皮は、漢方の世界では、鎮痛、発汗、解熱作用などの効用があるとされ、様々な漢方薬に配合されています。シナモンはスーパーでも手に入る身近な香りです。シナモンと砂糖を食パンに振りかけてシナモントーストにしたり、コーヒーやホットミルクにちょい足ししたり、ぜひシナモンの香りを楽しんでみてください。

(*Inoura*)

z/c 353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1[tel: 048-471-1361]
慶應義塾志木高等学校

2023 年　春 号（No. 083）
2023 年　4 月 21 日発行

志木高／美術館で「本物」に出会う

Museum

志木高の強みの一つは、「本物」の自然を素材に授業ができることだと思うが、実は歴史や美術の分野でも「本物」に触れることができる。斜路を上り、校舎に入ってすぐのところにある福澤諭吉坐像。これが慶應義塾の創立者の像であることを知らない志木高生はさすがにいないだろうが、塾内に数ある福澤像の中で最も貴重なものであることは、おそらく十分知られていない。この像の完成披露は明治26年（1893）、福澤の生前に造られた唯一のブロンズ像なのだ。しかも、粘土でその原型を作ったのは、日本近代最初の彫刻家とも言われる大熊氏廣（おおくまうじひろ）（1856-1934）、鋳造を担当したのは、明治を代表する鋳金家の鈴木長吉（すずきちょうきち）（1848-1919）である。志木高の福澤像は本物の福澤ではないが、明治時代の美術作品としては間違いなく「本物」なのである。

いま、竹橋の東京国立近代美術館では、日本の近代美術をテーマにした特別展「重要文化財の秘密」が開催されている（5月14日まで）。展示されている作品はすべて重要文化財。「重要文化財」とは、文化財保護法にもとづき、歴史上または芸術上価値の高い重要な文化的所産を国が指定するものだが（特に価値が高いとさらに「国宝」に指定される）、明治以降の絵画・彫刻・工芸品の重要文化財は現在68件しかない（国宝はまだない）。そのうち51件を展示する展覧会である。高橋由一（たかはしゆいち）の《鮭》など教科書・図説でお馴染みの作品も並ぶが、単に有名な作品を並べただけではない。各作品がいつ重要文化財に指定されたかに注目することで、近代美術の評価がどのように変化してきたか、それを明らかにしようとする意欲的な展覧会である。そこに鈴木長吉の代表作《十二の鷹》も展示されている。もちろん重要文化財。指定は2019年とかなり新しいが、多様な姿態・羽色の12羽の鷹を金属であらわしたその精巧さはむしろ分かりやすい。評価が遅れたのはなぜなのか、会場で考えてみてほしい。

一方、竹橋に集結しない重要文化財17件のうちの1件、橋本雅邦（はしもとがほう）の《龍虎図屏風》は、いま丸の内の静嘉堂（せいかどう）で展示されている。日本史の図説にも載っている著名な作品だが、本物を見たら、小さな図版では分からないその迫力に驚くはずだ。静嘉堂は三菱の2代社長岩崎彌之助（いわさきやのすけ）と4代小彌太（こやた）、父子2人のコレクションを展示する美術館。明治時代の美術に焦点を当てた展覧会「明治美術狂想曲」が開催中である（6月4日まで。《龍虎図》の展示は5月7日まで）。先日訪れたところ、ここにも鈴木長吉の作品が1点出ていたが、驚いたのは大熊氏廣の《岩崎彌之助像》。ブロンズの胸像で明治29年（1896）、志木高の福澤像より少し後の作である。ウェブサイトで確認できる作品リストにはなかったのに、なぜか展示されていた。行ってみないと分からないことがあるのも展覧会の面白さである。

静嘉堂のロビーには大正2年（1913）、新海竹太郎（しんかいたけたろう）作の《岩崎彌之助像》も置かれているので、同じ人物を2人の彫刻家がどのように作品にしたか、見比べることができる。さらに志木高に戻って、今度は大熊作の彌之助像と志木高の福澤像を比べれば、両者の共通点から大熊がどういう個性を持った作家だったのかも見えてくるはずだ。



鈴木長吉《十二の鷹》石川・国立工芸館
（12羽目の頭部。撮影は筆者。展覧会会場にて）

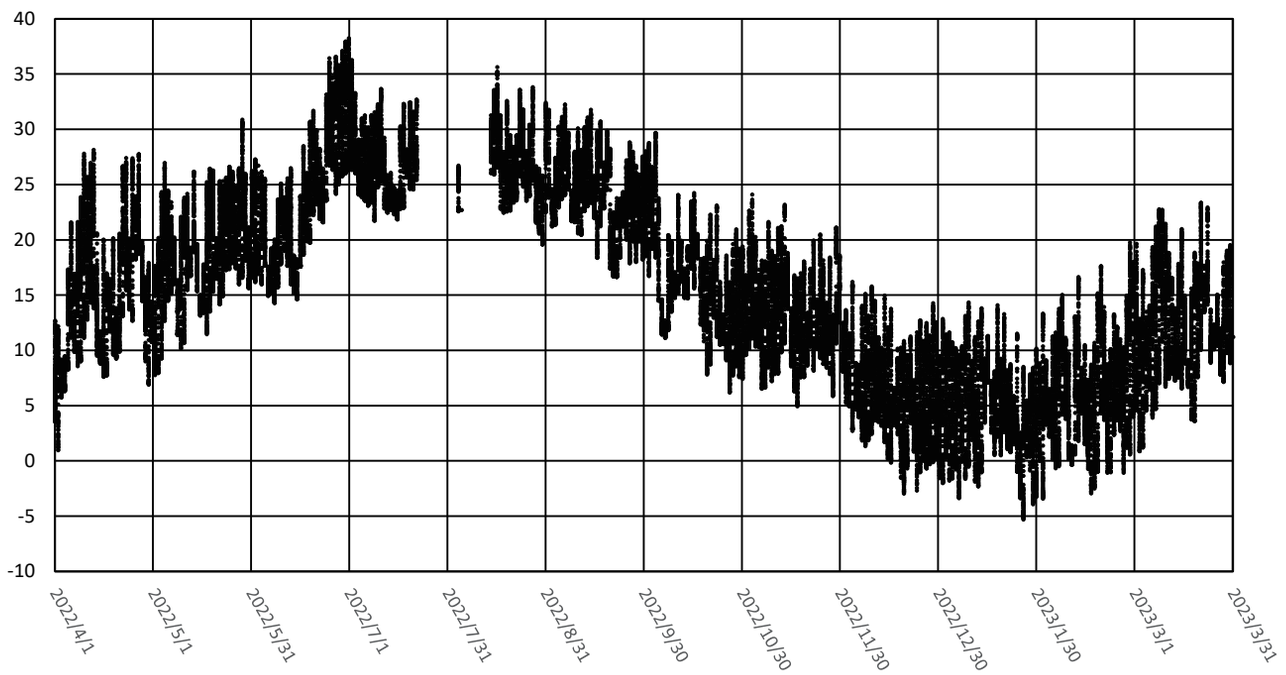
春は展覧会の季節。志木高生には各地の美術館・博物館に出かけて「本物」に出会ってほしい。そして、校内の「本物」にも出会い直してほしいと思う。

(Hara)

志木高の気象観測　*Meteorology*

志木高には百葉箱がグラウンドの隅、ソフトテニスのコートの脇にあります。百葉箱の横からタコのように足が伸びた（実際にはケーブルです）先にはCampbell Weather Stationという自動気象観測装置があります。2020年の夏に設置し、気温や降水量、湿度、風向・風速、気圧、日射量、落雷、さらには地中の温度（深さ0.5m、1.0m、1.5m）の各種データを10分ごと自動的に記録しています。図は校内の一年間の気温変化で、10分毎の計測のため各日の最高・最低気温の幅をもちながら、一年を通して季節変化していることがわかります。

志木高の気温変化　2022/4/1 - 2023/3/31　横軸：日付、縦軸：気温［℃］



7月下旬～8月上旬に欠測あり（機器不良のため）

(Higuchi)

春の句　*wa-ka*

花埃はらへばすぐに雨晴れて

春雨の芝生の上の土ふまず

春雨に眩しき白やスラックス

ねつとりと椿の花を濡らす雨

プレハブに吹奏楽部諸葛菜

暖かき膝を抱へて芝の上



諸葛菜
（ショカツサイ／アブラナ科）

(Maekita)

志木の自然[睦月(1月)如月(2月)弥生(3月)卯月(4月)]

Plants

ナズナ【薺】　言うまでもなく，春を代表する植物で「春の七草」の一つでもあります．ペンペン草という名でも知られますが，春の七草に加えられるほど日本人に親しまれているのは，ナズナに薬草としての効果があることも大きな理由の一つです．植物体全体にアセチルコリンやコリンを含むため，副交感神経に作用します．具体的には，胃腸の動きを活発にし，血管を拡張させて血圧を下げる等の効果があります．また，止血や利尿作用があるとされます（出典:「原色牧野和漢薬草大図鑑」北隆館）．かように有用な植物なのです．

[2023年1月～2023年4月までの開花情報]

Grass

14.Feb.2023 ヒメオドリコソウ

24.Feb.2023 タネツケバナ

7. Mar.2023 ヤエムグラ,オオアラセイトウ, カラスノエンドウ,オオジシバリ, ノボロギク, ハナニラ

14. Mar.2023 カタバミ, キュウリグサ, ヤブタビラコ, オオジシバリ, カントウタンポポ, タチツボスミレ, ヘビイチゴ, ムラサキケマン

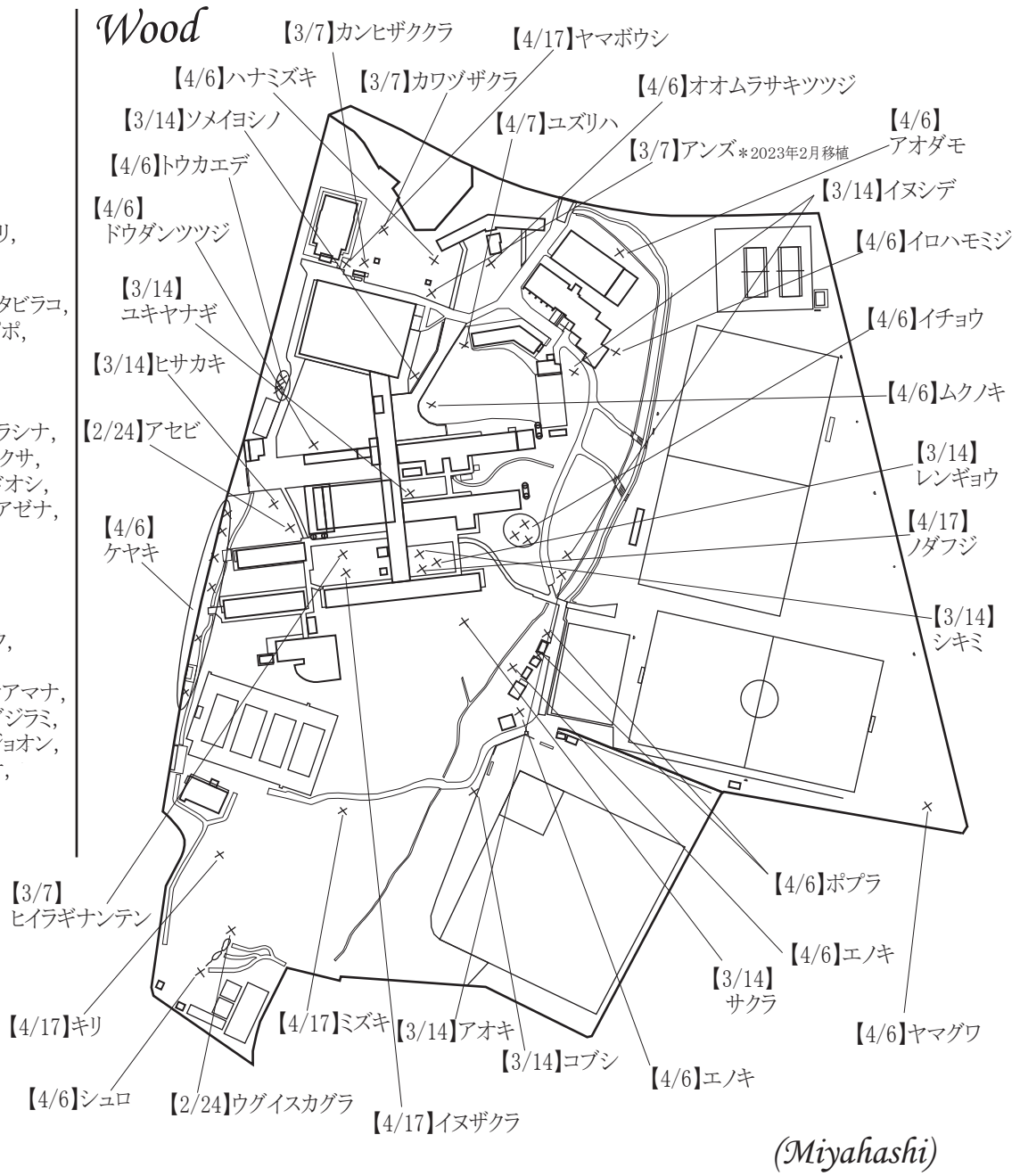
6. Apr.2023 ヤブニンジン,ハルジオン,カラシナ, キランソウ,フデリンドウ, シバクサ, ニョイスミレ, イヌムギ, カキドオシ, スミレ, シロツメクサ, アメリカアゼナ, トキワハゼ, ムラサキカタバミ, オッタチカタバミ, キランソウ, イブキスミレ

17. Apr.2023 ナガミヒナゲシ, カラスビシャク, マルバスミレ,ツボミオオバコ, チチコグサ, ノミノツヅリ, オオアマナ, カキドオシ, タツナミソウ, ヤブジラミ, コヒルガオ, ウマゴヤシ, ヒメジョオン, ハハコグサ, ムラサキサギゴケ, オランダガラシ



【ナズナ】
アブラナ科ナズナ属

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	天文・気象	樋口　聡　*(Higuchi)*
	歴史・美術	原　浩史　*(Hara)*
	俳句	前北　馨　*(Maekita)*
	風習・文化	井之浦　茉里　*(Inoura)*
	植物・地質　他[&発行責任]	宮橋　裕司　*(Miyahashi)*
	植物画・編集	荒巻　知子　*(Aramaki)*